

会議議事録

事業名	令和6年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 (2)教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第1回授業改善サポーター育成講座開発委員会
開催日時	令和6年6月24日(月) 14:00~16:00
場所	リファレンス駅東貸会議室(ハイブリット)
出席者	事業責任者：岡村 慎一 計1名 委員対面：小田 政江、合田 美子、足立 隆 委員OL：猪俣 昇、半田 純子、吉橋 大樹 計6名 請負業者：飯塚 正成 計1名 <u>合計8名</u>
議題等	○今年度の事業計画書の確認 ① これまでの改善案を踏まえて現時点で確定している改善案の見直し ・コミュニケーションツールの改善 : 令和5年度はDiscordを用いていたが、今年度はLINEグループを活用するのはどうか？小田 : 業務用に作れるLINE(オープンチャット)がある。運用者はプライベートのLINEと切り分けて使用できる。合田 : 講座を受けた受講生同士の交流ツールとして、オープンチャットを活用する。吉橋 ※Slackではないのは、有料版でないとデータが3か月で無くなるから。 ※専門学校教員は、学校によってICTツールが異なる。しかしLINEはプライベートでも活用するため、誰にでも馴染みがあるツールとなる。 : プライバシーに配慮してグループチャットを作成できる(以下URL参照)猪俣 https://openchat-jp.line.me/other/usage_guide_user : LMSは学習のためのツール、LINEはコミュニケーションツールと、運用方法を切り分ける。合田 : オープンチャットの運用方法を決める必要がある。岡村

	(委員がオープンチャットの管理者になる、LINE を活用するプロセスをどのように観察するか、オープンチャットの閲覧権限について等)→文科省に納品する関係上、オープンチャットのやりとりのプロセスを開示する必要がある。飯塚 : LINE は受講者同士でのコミュニケーションツールにする。WG 委員も閲覧できる設定とする。合田 : オープンチャットの作成とアンケートは運用側で実施する。 ○講座改善の情報収集および各校における実施事例等を収集するために、令和 5 年度の参加者 15 名にアンケート調査を実施する。(合田) : アンケート項目は以下の通り。参加者にメールを送り、回答収集をする。 昨年度の養成講座の研修目標が3つありました。それぞれについて、 (a) 現在の達成度として最も適当なものを選択肢から選び、 (b) 現在の状況について簡単にご説明ください。 (c) 研修の効果が持続している、または持続していない理由を記述して下さい。 1. 授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のためのコンサルテーションを行うことができる。 2. 自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる。 3. 授業改善サポーターとして、養成講座に参加した他のメンバーと相談したり、支援し合えあったりしている。 研修 3 以降のアクションプランで、1 週間以内、1 ヶ月以内、6 ヶ月以内にやることの計画を立てていただいたと思います。現在は6 ヶ月くらいになりますが、アクションプランで立てた計画通りに進められているでしょうか。「研修 3 以降」のリフレクションを埋めて送付いただく。 ○専門学校教員向け動画教材の開発をする(合田) : LMS の用意は猪俣が実施。 : 180 分程度の動画教材。 : 8 月 29 日(木)に動画収録を実施する(合田) →8 月 20 日(火)までにアンケートの取得が必要となる。 : 熊本大学の動画教材をベースに進めていく。 : 熊本大学で使っていた教材の事例を専門学校にありそうな文脈にすることで、専門学校教員にとって、より分かりやすい教材にする。
--	--

	：モジュールの説明が長い部分は、事前課題の難易度を高くしてしまっている。 ：モジュール AB は自分の業務に照らし合わせることが出来たが、モジュール C は難しい印象だったので、細かくかみ砕いてほしい。 ：「学習目標の高度化」については、表現が難しい所があるため分かりやすいような言い回しに出来れば。 →収録が 8 月 29 日のため、8 月半ば迄には事例が欲しい。優先順位をつける。 ：7 月 5 日（金）9 時～、専門学校事例のブレスト会を実施（伊藤、吉橋、成底、岡村、合田）＋受講生からのアンケート結果を参考に動画教材開発する。 ：個人レベル、組織レベルでの働きかけが上手くいった受講生にインタビューをし、事例を収集したい。 ：参考文献に熊本大学のクレジットを入れる。 →文科省は、オリジナルの教材作成をオーダーしているため、参考文献の見え方を工夫しなくてはならない。 ○今年度開発する授業改善サポーター養成講座の検証講座 ：授業改善サポーター養成講座はオンラインも対面も 3 時間程度で実施。 【第 1 回】11 月 5 日（火）の 13 時～16 時に実施 in 福岡 【第 2 回】11 月 26 日（火）の 15 時～18 時に実施 in オンライン 【第 3 回】12 月 17 日（火）の 15 時～18 時に実施 in オンライン ※10 月 15 日（火）15 時～16 時にオリエンテーションを実施 ○成果物 ：暫定版授業改善サポーター養成講座 2024 年版 カリキュラム・シラバス・教材等 ：動画教材 3 時間程度 ：講座事後に実施されるアンケートやリフレクションを取りまとめた報告書 ○今後の WG の日程決定 ・第 2 回委員会：7 月 30 日（金）15 時～17 時 in オンライン ・第 3 回委員会：9 月 27 日（金）10 時～12 時 in 福岡 ※11 月 5 日（火）の研修終了後に反省会（第 4 回委員会）を実施。
配布資料	・第 1 回 授業改善サポーター養成講座開発委員会次第 ・【R6】要項様式 2_事業計画書（質保証）全専研_教職員研修事業